

令和7年度の主な事業報告

社会福祉法人 千代の会

社会福祉事業

【特別養護老人ホーム（ユニット）】

令和6年度	令和7年度
【月別稼働率】 4月 91.2% 5月 89.3% 6月 89.9% 7月 91.9% 8月 95.1% 9月 91.5% 10月 95.1% 11月 92.1% 12月 93.5% 1月 90.5% 2月 89.1% 3月 85.8%	【月別稼働率】（内訳） 4月 87.9%（入所：82.2% SS：138.3%） 5月 88.1%（入所：82.0% SS：141.5%） 6月 87.1%（入所：80.9% SS：141.7%） 7月 90.0%（入所：84.0% SS：142.7%） 8月 95.0%（入所：86.5% SS：168.5%） 9月 92.1%（入所：80.9% SS：189.6%） 10月 91.8%（入所：79.8% SS：197.2%） 11月 91.9%（入所：78.6% SS：208.3%） 12月 91.2%（入所：74.7% SS：235.9%） 1月 90.5%（入所：71.1% SS：260.1%） 2月 92.6%（入所：71.5% SS：277.2%） 3月 88.0%（入所：70.2% SS：243.5%）
【新規入所者】 ・11名 【退所者】 ・15名 【新規ショートステイ】 ・40名	【新規入所者】 ・15名 【退所者】 ・23名 【新規ショートステイ】 ・40名
【備考】 ・年末まで昨年度同等かそれ以上の稼働率をキープしていましたが、12月頃から昨年度と比較して体調を崩してしまう方が多く、ショートステイはキャンセルが相次ぎ、長期入所者からも毎月数名退所者が出てしまう状況となってしまいました。入所待機者についても実質ほほい状態となっており、新規の確保が必要となっています。その為、病院や居宅からの受け入れに幅を持たせることに加え、空所は一時的に繋ぐロングショートよりも長期入所を視野に入れた受け入れが優先となります。	【備考】 ・昨年度と比べて退所者の人数が多く見られたものの、年間の稼働率としては大きな変化は見られていません。しかし、年度末には入所の稼働が70%まで下がっており、その分はショートステイで維持している状態です。理由として、現在、施設の取り決めでは外泊禁止や外出の時間制限、また面会の制限も含め、利用中ショートステイの方が自由が高い為、長期入所への切り替えに踏み切れない御家族様が多くいることが理由にもあげられます。今年度は長期入所に切り替えられるように施設内のルールも検討して行く予定です。

令和7年度の主な事業報告

社会福祉法人 千代の会

社会福祉事業

【特別養護老人ホーム（ユニット すずらん）】

○利用者様と職員の笑顔あふれるユニット作り

○理念に掲げる「人・心・和」を大切に、利用者様が安心して生活の出来るユニット作り

事業計画（目標）	事業報告（結果）
①尊厳のある接し方と言葉遣い（接遇）の強化 ・利用者様は勿論、職員間でも挨拶と感謝を大切にする、特に感謝の言葉は積極的に発言していく ・利用者を優先し何事も笑顔で接していく ・面会や電話対応時等、ご家族への言葉使いや接し方も、失礼のないよう十分に気をつける（施設の顔となることを意識する）	・挨拶は基本とし良く出来ていると感じる。「ありがとう」の感謝の言葉も掛け合っておりコミュニケーションが取れていた。電話対応では職員によって敬語の使い方等の差がある為、差を埋めていけるよう研修を受けたりして努力していきたい。
②介護職員としてのプロ意識 1.職員一人一人がケアプランを理解し、ケアプランに基づいたケアが出来る 2.身体介護時やリビング居室の環境など、一人一人の尊厳やプライバシーを大切にするケアを行う 3.利用者と職員の健康管理を徹底する 4.医務との連携「報・連・相」をしっかりと行い感染予防と対策を徹底する	1.ショート利用者が増えケアプランだけでは情報が足りない事が多々あった。情報が少なかったり、間違った情報もある中、よくケア出来たと感じる。 2.おむつ交換時は居室にて、カーテンを閉める等徹底して行っている。同性介助希望のある女性利用者の入浴は必ず女性職員が行うなど入浴の調整を行った。 3.ユニット内では感染症が出る事なく健康に過ごす事が出来た。 4.利用者の情報を医務も知らない、ユニットも知らない事が多々あった。情報を待つだけでなく積極的にこちらから情報を集めるよう努力したい。
③季節にあった行事の充実 春：お花見 夏：七夕飾り、かき氷 秋：秋祭り 冬：クリスマス会、節分 ＊長期入所の方には誕生日月に誕生日会の実施 ＊施設にいても季節が感じられるよう季節に合った飾りつけを行う	・誕生日会は実施できている。今年はひまわりユニットと合同で、ご家族参加のカフェイベントを開催できた。
〈課題と今後の取り組み〉 ・言葉遣い（敬語の使い方）に個人差があった、また接遇について学ぶ機会を増やしていきたい。 ・各部署との連絡・情報交換をしっかりと行い、利用者にその場しのぎのケアではなく、根拠あるケアが提供出来るようにしていきたい。	

令和7年度の主な事業報告

社会福祉法人 千代の会

社会福祉事業

【特別養護老人ホーム（ユニット ひまわり）】

○安心・安全を基本とした思いやりや温かみのあるユニット作り

事業計画（目標）	事業報告（結果）
①尊厳のある接し方と言葉遣い（接遇）の強化 ・入居者様に対しても、職員間でも挨拶と感謝の気持ちを大切にする ・入居者様の生活のお手伝いができるよう信頼関係を築く	・職員の異動もあった為、入居者様との信頼関係が難しいこともあった。 ・入居者様と職員間での挨拶と「ありがとう」の感謝の気持ちを言葉にしていた。
②介護職員としてのプロ意識 ・介護職員の責任感や仕事に対するプロ意識の向上を目指す ・職員間での報連相と情報の共有を心掛ける ・職員全員が同じクオリティ（品質）でケアができる様に、月1回のユニット会議を開き、介護サービスの質を向上させる ・健康管理、感染対策を適切に行い感染予防に努めていく	・職員がコロナ感染したため、感染対策、感染予防が適切に行うことができなかった。 ・月一回のユニット会議が達成できなかった為、入居者様へ統一したケアの質を提供することが出来ていなかった。 ・タブレットに利用者様の様子を出来る限り詳しく記録して、情報の共有を心掛けていた。
③余暇活動の充実化 ・季節や日時を感じていただき、気分転換ができるよう行事を計画する 1月 書き初め 2月 節分 3月 ひな祭り 4月 お花見 5月 母の日 6月 七夕 7月 スイカ割り 8月 川せがきの花火大会 9月 書道会 10月 カラオケ大会 11月 食レクリエーション 12月 クリスマス会 通年：お誕生日会、体操、歌（合唱）など日々のレクリエーションの充実	・お誕生日会など日々のレクリエーションはできたが、季節ごとの行事は難しかった。
〈課題と今後の取り組み〉 ・接遇、プロ意識、余暇活動を課題としていたが、接遇については施設外研修の参加や職員間での言葉遣いを注意し、より良い信頼関係が築けるようにしていく。 ・プロ意識については責任感を持ち、ユニットや各部署と情報の共有をするよう心掛け、介護サービスの質を向上できるようにしていく。 ・余暇活動については、職員の体調不良による人員不足や感染症対策の為に実施できない事があった。 ・今後の計画は人員不足や感染症対策時でも左右されない年間行事を作成していく。	

令和7年度の主な事業報告

社会福祉法人 千代の会

社会福祉事業

【特別養護老人ホーム（ユニット こすもす）】

○穏やかで安心して生活できる環境をつくる支援をしいていく

○笑顔で楽しくその方らしい生活が送れるよう支援していく

事業計画（目標）	事業報告（結果）
①接遇の強化・徹底 ・出勤時は必ず「おはようございます」帰りの際には「ありがとうございました」と笑顔で挨拶する事 ・入居者様に対しては必ず「様」又は「さん」を付けて呼ばせていただき、あだ名や呼び捨て、「ちゃん」付けなどは禁止とする ・目上の人、人生の先輩に対して尊厳ある言葉使いを忘れずに ・親しみやすさと馴れ馴れしさは違うという事を意識し、接していく ・個別化を踏まえた接遇。（声の大きさ、高低差、話すスピードやテンポなど）	・出勤、退勤時のあいさつは笑顔で雰囲気良くすることが出来ていた。 ・入居者様（目上の方、人生の先輩）への呼び方、言葉遣いが時折、適していない時があった。適切でない時は職員間で注意し合って適切な言葉掛けが出来よう心掛けた。
②個別ケアの充実 ・生活のリズムや趣味・嗜好を把握。（サマリーやご家族などに聞き取り）し、入居する以前と変わらず「暮らしの継続」が出来る様なケアをしていく ・ケアプランを必ず月1回確認。（月初め） ・求められるケア 入居者様が何を求めているのかを知る。そしてそれに合わせたケアを行う為には職員と担当入居者様のコミュニケーションをより深く図っていく。介助方法は介護士の都合ではなく、その人に合わせた時間に行う	・入居する前の「暮らしの継続」の実現は殆ど行うことが出来なかった。 ・趣味や嗜好の把握は出来ていたケアに反映することは全体的にみると出来ていなかった。 ・行うケア内容についての話し合いは比較的、行えていた。 ・ユニット内では統一したケアの提供が行えていた。
③記録の入力と重要性の理解 ・申し送りはタブレットを活用し細かい事も記入し情報漏れを防ぐ ・生活の様子は、細かい時間やケアプランに沿った記入を基本とし、また変化が見られた出来事などはその都度関わった職員が記入していく	・申し送りについてはタブレットの機能を使用し情報共有ができていた。 ・記録についてはケアプランに沿った内容や細やかな出来事の入力が足りていない事があった。
④各入居者様の担当業務 ・居室の整理・整頓、掃除（ベット・エアコン・換気扇・タンスの中・衣替え）等 ・御家族への嗜好品、衣類などの依頼の連絡（ユニット職員と相談の後） ・状態変化の把握 ・御家族との信頼関係を築ける様に心がけ面会時など交流をはかっていく。必要な場合は、家族との連絡ノートを作り活用していく ・誕生日会の企画・プレゼントの用意	・居室の整理整頓掃除は行う事が出来ていた。また随時汚れや乱れがあった時は清掃を行っていた。 ・担当者のご家族との連絡行い、信頼感を築くことができていた。 ・誕生日会で食行事を企画して好きな食事をテイクアウトなどした。プレゼントを用意することが出来なかったが、その分ユニット行事を行った。

⑤余暇の充実 ・機能低下を防止するための簡単な運動、レクリエーションの実施 ・AMラジオ体操 ・気候がいい時には外へ出て気分転換を図る	・日々、様々なレクリエーション(歌、体操、ボール投げ、折り紙、塗り絵 等)の実施や季節感のある行事(花見、かき氷、外注食、外出 等)が行っていた。
⑥ユニット会議 ・月一回ユニット会議を行い、又、職員のレベルアップを兼ねた研修も行っていく	・月1回ユニット会議は開催することが出来たので、情報の共有と連携を円滑に行うことが出来た。 ・身体拘束や感染症防止の研修を行う事は出来たが、その他の研修は実施することが出来なかった。
⑦写真撮影 ・職員は毎月一回担当入居者様の写真を撮る ・見返す楽しみや定期的な変化の様子、普段の様子をご家族様へ伝える手法の一つとして活用、最終的には退所時に家族にお渡し出来るように管理していく	・写真は撮影出来ていたが、毎月実施することは出来なかった。来年は面会時や外出時など撮影を行うタイミングに明確性を持たせて一枚でも多くの写真を残せるように努めたい。 ・写真を見て御家族様がとても喜んでくれたので、今後も継続して行きたい。また退所時に渡す事も出来たので、同様に継続して行きたい。
⑧年間行事 4月 お花見会(お外で桜を見ながらお茶会) 7月 夕涼み会(お祭り気分を味わっていただく) 8月 花火会(花火を楽しんでいただく) 10月 ドライブ(コスモスを見に行く) 12月 クリスマス会 1月 新年会 ※その他 食行事、誕生日会、テイクアウト、外出行事もいれていく	・職員の体調不良による休暇や人員不足により、月ごとに予定していた行事の開催は出来ていないことが多かった。 4月 お茶会の実施 7月 夕涼み会→おやつ行事でパフェパーティーへ変更 8,10月 ドライブ実施出来ず 12月 クリスマス会の実施 1月 新年会実施出来ず ※その他の食行事は複数回実施出来た
〈課題と今後の取り組み〉 接遇、個別ケア、年間行事を課題としたが 接遇については、施設外研修への参加や職員間で言葉遣いを注意し合って良い雰囲気づくりをしていき、より良い信頼関係が築けるようにしていく。 個別ケアについては、「暮らしの継続」を実現するため家族とも、今以上にコミュニケーションを図り情報の共有やケアの相談が必要であると思われる。 年間行事については、職員の体調不良による人員不足や感染症対策のために実施できないことがあった。今後の計画は、人員不足や感染症対策時でも左右されない年間行事を作成していく。	

令和7年度の主な事業報告

社会福祉法人 千代の会

社会福祉事業

【特別養護老人ホーム（ユニット すみれ）】

○一人一人の入居者様と真摯に向き合い、日々を穏やかにその人らしく過ごして頂けるよう支援させていただく

○知識、技術の両面でのスキルアップを図るため、勉強会や研修を行い知識を身につけ、経験を積む。
また新人職員を対象にOJT、OFF-JTを活用し教育していく

事業計画（目標）	事業報告（結果）
①認知症の方であっても、その人らしく生活が送れるよう支援をする。アセスメント、モニタリングを深く行い、根本的にある不安や苦痛に感じている事を和らげるように接していく。傾聴する機会や時間を多くとり、些細なサインを見逃さないよう日々ケアを行う。	・個別の生活に合わせたケアの提供が比較的行えていた。コミュニケーションの機会を出来る限り多く取り、些細な訴えにも耳を傾けサービス計画書にも反映出来ていた。 ・毎月の行事は、人員不足や感染症対策により行えないこともあった。
②ケアスタッフのスキルアップを図り安心感のある安全なサービスを提供する。ユニット会議時に介護技術や知識の研修を行いユニット全体でスキルアップをし、より良いケアが提供できるよう努めていく。また機会があれば外部での研修会の参加も積極的に参加していく。また新人職員を中心のOJT、OFF-JTを活用し教育をしていく。	・定期的な研修(施設内・外)を行いスキルアップ出来る機会を作る事が出来た。(感染症、虐待・身体拘束、排泄、等の研修実施) ・職員教育にOJT、OFF-JTの活用が出来ていなかった。
②年間行事予定 以下の行事を行い、生活にメリハリをあたえ楽しみを増やす工夫をする。 4月 花見(屋外) 5月 お茶会(屋外) 6月 外出 7月 スイカ割り 8月 アイス・かき氷提供 9月 外注食 10月 秋祭り 11月 紅葉狩り 12月 クリスマス会・忘年会 1月 正月 2月 節分 3月 ひな祭り	・外出行事については人員不足により実地が予定通り行えていない行事があった。他の行事については比較的予定通りに出来ていた。行事によっては対のユニットと協力しながら行ったこともあり、出来る限り楽しみになる機会を多く提供することが出来ていた。
〈課題と今後の取り組み〉 ・年間行事について、人員不足や感染症対策時でも左右されない行事も考慮しながら計画を立てられれば良かった。 ・更にスキルアップ出来るよう、施設外の研修も参加していく。 ・他の優先業務があり、職員教育に必要な業務手順書や評価表の作成が途中で止まっていた。来年度に向けて作成をすすめ実践していく。	

令和7年度の主な事業報告

社会福祉法人 千代の会

社会福祉事業

【特別養護老人ホーム（ユニット あやめ）】

- 丁寧な言葉遣いを意識して利用者様のケアを行っていく
- 介護の技術、知識の向上、職員のスキルアップをしていく
- 行事、余暇活動を充実させていく

事業計画（目標）	事業報告（結果）
①業務優先ではなく利用者様との関わりの機会を増やしていく ・利用者様と積極的にコミュニケーションを取り、一人ひとりの利用者様の思いを理解する	・利用者様と接する際は言葉遣いに注意し相手に不快な思いをさせないようにユニット職員に指導を行った。結果としては意識して行うことによって言葉遣いは以前よりも丁寧になったと思われる。次年度においても注意をしてケアを行っていきたい。
②研修の参加の機会を増やし、職員で知識を共有していく ・職員の研修の参加を一人ひとりが積極的に参加する機会を作っていく。また、ユニット会議等でも研修を行い、職員同士で知識や技術の共有をしていく	・職員のスキルアップとして施設内研修（オムツ研修、虐待防止研修、感染症の研修）に参加し、前年度よりも研修項目が増えスキルアップに繋がったと思われる。外部の研修に職員から積極的に参加したいとの要望はあまり聞かなかったので次年度は積極的に参加を促したい。また、ユニット会議等で簡単な研修を行い更なるスキルアップを行っていきたい。
④常に思いやりのある介護を意識し、業務を行っていく	・業務を行う際は常に相手の立場になって考え、利用者様が不快になるような言動のないようにと意識して行動することが出来た。
③行事、余暇活動を充実させて利用者様に施設生活を楽しく頂く ・昨年度よりも行事、余暇活動を充実させて楽しむ機会を増やしていく。また、職員が自ら行事や余暇活動の提案を積極的に行えるようにする	・食行事、季節行事、誕生日会等、利用者様が楽しめるような企画を昨年度よりは多く開催できたと思われる。また、12月にあやめ、すみれ合同のクリスマス会を行いご家族を呼んでの初の試みの大きな行事を行うことが出来職員にとっても良い経験になったと思われる。次年度では外出行事も含め食行事、季節行事の充実をしていきたい。
⑤年間行事予定 4月 お花見 6月 おやつ作り 7月 夏祭り 9～11月 焼き芋パーティ（仮）、収穫祭 12月 クリスマス会 1月 新年会 2月 バレンタインおやつ作り 3月 ひな祭りパーティ（ちらし寿司、おやつ作り） ※入居者様、利用者様の該当月に誕生日会の実施	
〈課題と今後の取り組み〉 ・次年度でも思いやりの心を大切にしていきたい。	

令和8年4月30日

令和7年度の主な事業報告

社会福祉法人 千代の会

社会福祉事業

【特別養護老人ホーム（ユニット なでしこ）】

○自ら受けたいと思う介護の提供をしていく

○お客様お一人おひとりに寄り添い笑顔で生き生きと暮らせるような介護を目指していく

事業計画（目標）	事業報告（結果）
①接遇の強化 ・お客様とご家族に安心・信頼・満足をお届けするために基本となる「言葉」「態度」「身だしなみ」の要素を職員全員が身につける事が出来るようにする	・利用者様本人の意思を尊重し、本人ができることでできないことを見極めて、介助を行うことを心掛けていた。しかし、利用者様の思っていることや職員が思っていることとの相違があり、上手くいかない部分もあった。 - また、利用者様の話を傾聴しなるべく不安にならないよう職員が心掛けていたが、人員不足や業務のことを意識してしまい不十分な部分もあった。
②個別ケアの実践 1.ひとりひとりの状態や個別の生活歴をしっかり把握する 2.それぞれの価値観を持って、相手に合わせた対応をしていく	・人員不足による残業、早出出勤が度々あり、流れ作業の様な対応があったと思われる。
③職員のスキルアップ ・日々の業務の中からお客様の変化に気づき、より良い形で対応していける様にしていく ・研修会などの積極的な参加	・職員一人一人の介護スキルは毎日の業務をこなすにつれてアップしているように思える。だが、それでも利用者様一人一人にあった介護を行うことが難しく、転倒などのリスクをあげてしまうこともあった。
④暮らしの年中行事 4月 お花見会（お外で桜を見ながらお茶会） 8月 花火会（花火を楽しんでいただく） 9月 敬老会 12月 クリスマス会 1月 新年会 ※その他 食行事、誕生日会、テイクアウト、外出行事もいれていく	・食行事、誕生日会、季節の行事を行い少しでも利用者様に楽しんでもらおうと職員一同で努力をした。しかし、それでも足りない部分はある満足してもらうには足りない部分もあった。来年度では少しでも利用者様に気分転換を図っていただける様に余暇活動や行事に取り組んでいきたい。
〈課題と今後の取り組み〉 ・介護職員として(プロ)の心構え、自覚・責任をもち、お客様の役に立ちたいと思う気持ちを忘れず『思い込み』での介護をしないように心掛けていく	

令和7年度の主な事業報告

社会福祉法人 千代の会

社会福祉事業

【特別養護老人ホーム（ユニット たんぽぽ）】

- 利用者様の尊厳を大切にし心身を支える介護サービスを提供し、自らが受けたいと思う介護サービスを提供していく
- 介護職員としてプロ意識を持ち利用者様を第一に考えケアを行う。

事業計画（目標）	事業報告（結果）
①利用者様の尊厳を尊重する ・利用者様の個々の尊厳を大切に、今までの暮らしの継続を基本とした上で支援を行い、利用者様が安心できる生活と生きがいの持てる生活が出来る様に介護サービスを提供する	・個別ケアに関して一部のケアに対して利用者様へ不快な思いをさせてしまった事例もあった。
②利用者様の心を支え親身になり寄り添う ・利用者様の不安な気持ちを取り除く意味も含め、日々生活していく上で安心出来るよう個々に寄り添った個別ケアを行う	・ご家族様との面会の制限も緩和されてきてはいるものの、何時でも会える環境ではない為、次年度は今まで以上に面会が出来るような環境になる様に期待したい。 ・不安な気持ちがあるのにも関わらず、後回しにしたり疎かに対応した部分もあった。
③利用者様の身体的介護に関し安心していただける介護を目指す ・介護を行う事にあたり利用者様へ苦痛などの不快な思いをさせない様に、日々の様子を観察し適切な介護サービスを提供出来るように努める	・一部の利用者様に皮膚トラブルが発生してしまった事例もあり、医務による処置を何度も受けられる事もあった為、日々の皮膚観察の強化とケアの充実を図りたいと思った。
④職員個々のスキルアップを目指す ・プロの介護職員である事を自覚し、責任をもって利用者様へのケアにあたり、介護職員の思い込みだけでケアを行わない様に各部署との報告や相談を行い、利用者様に合わせた介護サービスを提供する	・職員の思い込みによるケアを見受けられた為、今一度ユニット会議などで個々のケアの見直しを図り、統一したケアを心掛けたい。
⑤イベント等を行い利用者様の気分転換を図る ・単調になりがちな生活にならない様に、個々の趣味や趣向を踏まえ、利用者様が生きがいのある生活を送れるように支援するとともに、季節に沿ったイベントを計画し実行していく ・年間行事予定 4月花見鑑賞 7月七夕 8月かき氷 9月敬老会 12月クリスマス会&忘年会 1月新年会 2月節分 3月ひな祭り ※その他に随時、誕生日会&食事レクを行っていく	・季節に沿ったイベントが満足に出来なかった事もあった為、次年度ではしっかりと計画を組み利用者様が満足出来るようなイベントを開催したい。 ・余暇活動に関しては誕生日会を行い、普段とは違う食事を召し上がっていただき、利用者様から好評を得られたので、引き続き次年度でも充実した活動が出来る様に努力する。
〈課題と今後の取り組み〉 ・目標に対して達成に至らなかった目標について、例えば、①利用者様の尊厳を尊重するについては、利用者様個々ケアのケアの見直し、統一をさせる。⑤イベント等については、計画に不備が無い様に協力し合って企画を行い、前年度より良い結果になる様に取り組むたい。	

令和8年4月30日

令和7年度の主な事業報告

社会福祉法人 千代の会

社会福祉事業

【特別養護老人ホーム（ユニット れんげ）】

○「暮らしの継続」で入居者様の個性や生活リズムを尊重しながら、その人らしい暮らしが継続できるよう支援していく

事業計画（目標）	事業報告（結果）
①接遇マナー ・利用者様やご家族様に不機嫌な顔や無表情を見せず笑顔で接し明るく親しみやすい表情を心がける	・スタッフ間、情報共有や助け合いが行えて信頼関係は築けていた。
②生活環境作り ・入居者様同士の交流の場を作る	・席の配置やスタッフの声掛けを工夫し、自然に会話ができる環境作りに努めた。
③個別ケア ・利用者様一人ひとりの個性に合わせ適切なサポートをしていく	・利用者様には期待に添えなく迷惑を掛けた面もあるが、出来る範囲の対応を心掛けたと思う。意思確認が十分に行えずスタッフ主導のケアになることがあった。
④イベント ・季節を感じられる行事計画を立て行っていく 1. 花見 2. 花火 3. 敬老会 4. クリスマス会 5. 節分 6. 忘年会 7. 新年会 8. その他（お誕生会やおやつバイキングなど）	・イベントは、おやつレク、誕生会、クリスマス会、施設外散歩を実行し利用者様に楽しんで頂けたが、もう少しレク行事を多く実行していく努力をしたい。
⑤介護職員のスキルアップ 1. 常に技術を磨きながら個人目標を立て日々のケアを行っていく 2. 他職種との連携を取り報告・連絡・相談を怠らない	1. 目標設定が曖昧で具体的な行動に結びつかない場面がみられた。 2. 利用者の状態変化時には速やかに報告した。
〈課題と今後の取り組み〉 ・報告の優先順位を明確にし確実に記録へ残す習慣を徹底する。 ・個々の状態や興味に合わせた内容を取り入れ無理なく参加しやすい環境作りに努める。	

令和 7 年度 事業報告書

社会福祉法人 千代の会

通所介護事業

令和 7 年度事業計画	結果報告
I 通所介護事業基本方針 1. 介護保険法の趣旨に従い、利用者が可能な限り居宅において、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるようサービスを提供します。 2. 必要な日常生活上の介助および機能訓練・生活リハビリ等を行う事により、利用者の社会的孤立感の解消および心身機能の維持ならびに、利用者家族の身体的および精神的負担の軽減を図ります。 3. 家庭に引きこもりがちな高齢者が通所を利用することにより、生活に“ハリ”・“リズム”をつくり精神的安定が図れるように努めます。 4. ゆったりとした安全な環境をつくり、住み慣れた地域で家庭生活を継続できるようにします。 5. 地域とのつながり、家族とのふれあい、ボランティアの受け入れにより、地域に開かれたデイサービスを目指します。	I 1. 個人の身体状況を鑑みながら通所介護計画書を作成し、入浴・排泄・機能訓練など個々に必要な介助をすることができました。 2. 前年同様に外出行事なども積極的に取り入れ、心身のリフレッシュや身体機能の維持に繋げることができました。また食行事なども行い、調理の手伝いなど生活リハビリも取り入れて楽しんでもらうこともできました。 3. 定期的なデイの利用をしてもらい、生活リズムを作り、行事などに楽しみをもって参加されていました。 4. 生活動線を広くとるなど安全面に配慮できました。 5. 絵本の読み聞かせのボランティアの受け入れがありました。

II 年間目標 1. 利用者や家族との信頼関係を深め、利用者の希望に沿った個別ケアに柔軟に対応します。 2. 他職種間での連携を密にとり、利用者のQOLの向上を目指し、利用者が安心してサービスを受けられるように努めます。 3. 外出も取り入れた行事の充実を図り、生活に楽しみやハリをもたらし、継続利用に繋がります。	II 1. 連絡帳でデイサービスでの様子などを報告、または連絡を行い情報共有に努めました。 2. 朝の申し送りや申し送りノートを使うことで、情報の共有ができました。 3. 上記 I-2 に準じる。
III 個別ケアの取組み 利用者個々の望みや課題を利用者の立場に立って正確に把握し、通所介護計画を立案し、プランに沿った援助を行います。	III 利用者ニーズなどに配慮した通所介護計画書を作成し、それに則り援助することができました。
IV 家族との信頼関係の構築 在宅サービスは、ご家族にとっても心身にゆとりの持てる時間を提供する側面もあることから、安心して利用者を送り出せるように、ご家族に対しても日ごろからコミュニケーションを取り、良好な信頼関係を築き、お互いに協力できる体制を作ります。	IV 送迎時や連絡帳を使用し、ご家族とコミュニケーションをとることができました。
V 関連機関との連携 介護支援専門員、地域の関係機関との連携・協力を努めます。また、サービス提供場面で得られる利用者やご家族の情報を居宅支援事業所に提供し、情報の共有をします。特別養護老人ホーム併設のユニットとの連携や協力関係を一層図り、事業所として地域に安心感を与え、信頼関係に努めます。	V 毎月モニタリングを行い、居宅支援事業所にご利用者の様子を報告することができました。また都度、必要な場合は連絡を入れることができました。 デイの他にショートステイもご利用の方はユニットとの情報共有ができました。
VI 職員の資質向上 サービスの向上を図るため、内部研修を実施しケアの基本・専門知識を修得します。専門性の高い研修については、外部機関が実施する研修に参加し最新情報を修得します。また、毎日のミーティングと毎月の会議では業務内容やサービスについて話し合い、情報共有を行います。	VI 外部機関の研修はスケジュールなどの問題も含め、参加不十分でした。 また、毎日のミーティングや毎月の会議などは行うことができました。

VII 事業活動 1. デイサービスの稼働率55%（一日平均14名）を目指します。 2. ホームページやパンフレットを活用した情報発信の強化を図り、デイサービスでの取り組みや魅力を広め、新規利用者の獲得に努めます。 3. 居宅介護支援事業者などの各種関係機関との連携を図ることでデイサービスへの理解を深めてもらい、紹介等の機会へと繋がります。 4. 自然災害などの緊急時に介護サービスの継続・早期復旧が図れるようにBCPを策定し、定期的な訓練を実施します。	VII 1.2.3 年間稼働日数 310 日。 年間延べ利用者数 3,127 名（前年度比 -448 名）、一日の平均利用者数 10.1 名（前年度比 -1.4 名）。稼働率 40.4%（前年度比-5.6%）。 <table><tr><th>居宅名</th><th>人数（令和8年3月）</th><th>前年比</th></tr><tr><td>みどりの風</td><td>19</td><td>△ 5</td></tr><tr><td>新橋</td><td>1</td><td>△ 0</td></tr><tr><td>ちよCOM</td><td>1</td><td>▲ 1</td></tr><tr><td>藤の花</td><td>4</td><td>△ 1</td></tr><tr><td>こでまり</td><td>2</td><td>△ 2</td></tr><tr><td>真央</td><td>1</td><td>△ 0</td></tr><tr><td>和の郷</td><td>1</td><td>△ 0</td></tr><tr><td>めいわCOM</td><td>1</td><td>△ 1</td></tr></table> 主にインスタグラムの運営にて情報発信を行いました。現在フォロワー数 297。インスタを見てもらい利用に繋がった例も何件もありました。引き続き居宅への挨拶に伺ったり、パンフレットやホームページを活用して広報活動やケアマネジャーとの連携を図ります。 4. BCP の定期訓練実施できました。	居宅名	人数（令和8年3月）	前年比	みどりの風	19	△ 5	新橋	1	△ 0	ちよCOM	1	▲ 1	藤の花	4	△ 1	こでまり	2	△ 2	真央	1	△ 0	和の郷	1	△ 0	めいわCOM	1	△ 1
居宅名	人数（令和8年3月）	前年比																										
みどりの風	19	△ 5																										
新橋	1	△ 0																										
ちよCOM	1	▲ 1																										
藤の花	4	△ 1																										
こでまり	2	△ 2																										
真央	1	△ 0																										
和の郷	1	△ 0																										
めいわCOM	1	△ 1																										
VIII 年間行事計画	VIII 当初の計画通り概ね実施できました。																											
IX 施設内研修	IX 上記VIに準じます。																											

居宅介護支援事業

令和7年度事業計画	結果報告
I 居宅介護支援事業基本方針 1. 介護保険法及び当法人基本理念に基づき、ご利用者の皆さまが住み慣れた地域において安心して暮らして頂けるよう相談支援に努めていきます。 ご利用者の意向を踏まえ自己決定権を尊重し、個々の有する能力に応じて更なる自立した生活が営んでいけるよう支援していきます。 また、自立支援に向けたサービス計画を作成するにあたり行政機関、医療、福祉サービス、地域包括支援センター、サービス事業所との密接な連携を図り、総合的かつ効果的なサービス提供ができるよう努めていきます。	I 1. 介護を必要とする利用者が可能な限り自立した生活を継続できるよう、適切なサービスの提供を行いました。
II 重点事項 1. 信頼関係の構築 自立支援に向けたサービス計画を策定するにあたり、ご利用者やご家族の意向を尊重し、十分な説明及び傾聴を心がけ信頼関係の構築に努めます。	II 1. 利用者や家族の意向を尊重し、十分な説明と傾聴を心掛けながら信頼関係の構築に努めました。
2. 利用者本位のケアプランの充実 住み慣れた地域での生活が安心して継続できるよう、ご利用者の意向を尊重しながら、介護保険サービス・インフォーマルサービス等を総合的かつ効果的に提供されるよう配慮し、課題を見極め、適切な自己選択によりご利用者本意のケアプランが作成できるよう努めます。	2. 介護保険サービスに限らず、多様な社会資源を活用できるよう利用者を選択肢を提示し、利用者本意のケアプラン作成に努めました。
3. 介護支援専門員としての資質・専門性の向上 ご利用者の多様化するニーズにお応えできるよう、各種研修等への積極的な参加により専門知識を広め、日々の自己点検により適切なケアマネジメントを行えるよう自己研鑽に努めます。	3. 町内主催の事例検討会やケアプラン点検において事例提供者として研修に参加し、ケアマネジメントの質の向上に努めました。
III 業務内容 1. 介護給付支援サービス事業 2. 予防給付支援サービス事業 3. 居宅介護支援センター業務	III 業務内容に差異はありません。 当初の計画通り業務を遂行できました。
IV 研修計画 1. 法人内部研修会への参加 2. 外部研修への参加	IV 研修計画 上記Ⅱ-3に準じます。
V 令和7年度 年間件数 合計目標 要介護計画件数 720件 要支援計画件数 120件 介護認定調査 36件	V 合計 要介護件数 570件 要支援件数 187件 介護認定調査 45件

厨房 令和7年度事業報告

項目	回数/年	業者	決算	備考
害虫駆除作業	1回/年	伊藤ビル管理事務所	¥77,000	保健所の指導により必須
貯水槽清掃	1回/年		¥88,000	
飲料水検査	2回/年		¥27,500	
洗浄機保守契約	1回/年	ホシザキ	¥19,800	年2回の定期点検付き
カートリッジ交換	1回/年		¥26,000	スチームコンベクションオープン用
非常食購入	随時	雄峯食品 ヘルシーフード	随時	・非常食3日分を確保。 ・賞味期限の近くなったものを入替え。 ・入替えたものはニッコク買取。
飲料購入	随時	雄峯食品 ヘルシーフード	随時	厨房、ユニット、デイで使用する飲料やトロミ剤の購入
通常外の食事代	3回/年	ニッコクトラスト	食材により変動 ¥40,000	おせち料理、春御膳、敬老御膳の重箱提供時の追加料金。(品数が多く入るため)
	随時	ニッコクトラスト	随時	イベントおやつ(スポンジケーキ、プリンケーキ)提供時の追加料金
厨房用品購入	随時	ヤマダ電機 信濃化学	随時	ミキサーの故障時、食器の購入等
消耗品購入	随時	島岡商店 三洋商事 クリバ	随時	洗剤、使い捨て手袋、サランラップ等
修繕	随時	ホシザキ 他	随時	厨房機器の老朽化が進んでおり、メンテナンスも必要となる。

厨房 令和7年度事業報告

食行事年間計画

月	行事	時間帯	内容
4	お花見	昼	春御膳(重箱)
5	こどもの日	おやつ	鯉のぼりのおやき
6	梅雨の味覚	おやつ	うめ餡饅頭
7	七夕	昼	七夕そうめん
	土用丑の日	昼	うなぎちらし
8	盆	おやつ	おはぎ
9	敬老の日	昼	敬老御膳(重箱)
10	ハロウィン	おやつ	かぼちゃプリン
11	秋の味覚	昼	秋刀魚の塩焼き
12	冬至	昼	かぼちゃ料理
	クリスマス	昼	クリスマス献立
	クリスマス	おやつ	クリスマスケーキ
	大晦日	昼	年越しそば
1	元旦	昼	おせち料理(重箱)
	七草粥	朝	七草粥
	鏡開き	おやつ	おしろこ
2	節分	昼	恵方巻、しもつかれ
	バレンタイン	おやつ	バレンタインおやつ
3	ひな祭り	昼	ちらし寿司
	ひな祭り	おやつ	ひなあられ
	春彼岸	おやつ	ぼたもち